

「テキスタイルマテリアルセンター」における

ワークショップの成果と今後の展望

Effects and Issues of Workshop of Needle Punch Wool Felting at Textile Material Center

中谷 友机子 村上 眞知子

Yukiko Nakatani Machiko Murakami

Abstract

Gifu City Women's College, Hashima City and Gifu Prefecture Worsted and Woollen Weavers Association concluded the agreement on the promotion of local industry on the basis of educational activities in textile material center in March 2017. In November Gifu City Women's College carried out the workshop of needle punch felt making for the children in Hashima as one of the co-operation works with three organizations. In this paper the effects of workshop to the understandings of local industry of Hashima area and advantages of wool textiles were discussed.

Key words: textile, wool, workshop, human resource development, local industry

1. はじめに

2017年3月28日に岐阜県毛織工業協同組合、岐阜市立女子短期大学、羽島市の三者連携による「テキスタイルマテリアルセンターを教育起点とした地場産業の振興に関する協定」を締結した。この協定は、尾州産地におけるテキスタイル産業の開発、職人・技術者の存続課題の対策、それに付随する織機の維持や開発など、様々な産地の活性化を促すとともに、次世代のテキスタイル業界、更にファッション業界を担う人材育成を推進する目的としている。

現在、ファッション業界の情勢は、まだまだ厳しく改善には至らず、「失われた20年」という社会経済において、猶も続く小ロット生産や海外生産の成熟が、テキスタイル産地の衰退へと導いた要因といえる。

もし、このまま改善や発想の大転換もなく経過したならば、より厳しい状況へと追い込まれていく。そこで、次世代のファッション業界を担う人材育成、産地ならではのテキスタイル生産の推進、品質や技術の継承が重要視され革新することは不可欠なのである。

2. テキスタイルマテリアルセンターの役割と目的

羽島市は江戸時代から美濃縞などの製織を中心に発展していった。1949年~50年頃には、毛織物の統制解除や中小企業等協同組合の公布をされると、特需景気(1950年~54年)の影響も伴い次々と織物関係組合が再編され、織物は製作すると売れるという「ガチャ万景気」が到来した。

1954年11月26日、日本毛織物等工業組合(毛工連)が設立。1958年には竹鼻織物工業協同組合とともに、毛織物産業振興の拠点施設として竹鼻町弧穴に毛織会館を建設。1993年4月5日には岐阜県毛織工業協同組合をはじめ、岐阜県毛織工業組合、岐阜羽島織物振興会、岐阜毛工婦人服地振興会、竹羊会、尾州テキスタイルデザイナー協会などの事務所を置き、竹鼻蜂尻に新しい毛織会館「テキスタイルマテリアルセンター」を再建した。現在、テキスタイルマテリアルセンターは、過去の実績を駆使し、海外ブランドのテキスタイルを含め、世界中の生地素材を集積、10万点以上の素材サンプルを常時展示して、毎年3000点以上の最新素材が集まる体制に従事している。

テキスタイルマテリアルセンターは、全国のアパレルメーカーの商品開発、更に、ファッション関係の大学や専門学校、素材研究、知識向上などの教育機関等の連携などに力を注ぎ、産地活性化の役割は大変大きいと考える。

本学はファッション専修の学外授業として、素材の研究や収集、ファッション情報のセミナーなど、授業の一環としてテキスタイルマテリアルセンターを訪れ、学生達が実習している。

今回のワークショップは、一般の方々、小学生や中学生等を対象に、毛織物に実際に触れて頂き、羊毛の特性を実感し、少しでも興味を持ってもらうことと、次世代の人材育成に繋がることを目的とし企画立案した。

3. ワークショップの実施とアンケート調査/結果

3.1 実施

ワークショップは2017年11月26日(日)、13:00から16:00を設定、実施した。会場はテキスタイルマテリアルセンター2階の研修室、定員を親子20組40人と定め実施した。

ワークショップの内容は『親子 羊毛フェルティング体験』をテーマに、羊毛の絡み合う性質や特徴を活かし、ニードルパンチで羊毛同士を付着させ、オリジナルなデザイン図案を制作、定着させていくフェルティング体験の内容である。つまり、羊毛の繊維同士を多数(5本針)のニードルのついた機械でつき圧縮して図案化し、オリジナルな羊毛のひざ掛けの制作することである。材料となるひざ掛け用の生地、およびニードルパンチングする羊毛スライバーは市販のものを用いた。

主催は岐阜県毛織工業協同組合で、組合側から2名、本学ファッション専任教員4名、それに羽島市から5名、岐阜県産業技術センターから1名の、合計12名が講師として指導にあたった。

ワークショップへの参加者は、親子の合計が44名(幼児含む)となった。

参加費 無料 平成29年度
テキスタイルマテリアルセンター
親子 羊毛フェルティング体験

国内最大級のテキスタイル資料館「マテリアルセンター」で、ニードルパンチを使って、羊毛でひざ掛けやショールに自分だけの模様をつきましょう。

日程 11月26日(日)
時間 13時00分～16時00分
会場 テキスタイルマテリアルセンター 2階研修室
(羽島市竹鼻町蜂尻 448 番地)
定員 親子20組40人
*体験に必要な材料、道具は主催者が用意します。(参加費無料)
*出来上がった作品はお持ち帰りいただけます。

申込受付期間 9月26日(火)～11月10日(金)
☆参加希望の方は、上記受付期間内に岐阜県毛織工業協同組合へ電話(058-391-8511)でお申し込みください。
定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

お問い合わせ
岐阜県毛織工業協同組合 TEL.058-391-8511 <http://matessen.com/>
主催:岐阜県毛織工業協同組合 協力:岐阜市立女子短期大学・羽島市

図1. ワークショップのパフレット

(羽島市作成、岐阜県毛織工業協同組合・岐阜市立女子短期大学監修)

3.2 アンケート調査

ワークショップ参加者対象に、終了後アンケート調査を実施した。子供の参加者の内、回答可能な10代から大人の計22名を対象にアンケート調査を行った。

アンケート調査内容は以下の項目である。

表1. ワークショップのアンケート調査項目

ワークショップのアンケートのお願い

岐阜市立女子短期大学

この度は、テキスタイルマテリアルセンター『親子 羊毛フェルティング体験』ワークショップに参加していただき、誠にありがとうございました。今回のワークショップ内容はいかがでしたか。皆様からの貴重なご意見を、今後のワークショップに反映したいと思っております。お手数ですがアンケートに御協力をお願いします。(以下の項目について該当する記号を○で囲むか、()内に記入してください。)
回答結果は、学術研究以外の目的に使用することはありません。また、個人情報公表されることも決っておりません。ご了承ください。

0. 御自身のことについて差し支えなければお伺いします。

①性別 (1)男性 (2)女性
②年齢 (1)10代 (2)20代 (3)30代 (4)40代 (5)50代 (6)60代 (7)70代以上
(8) 同僚のお子様の年齢 ()
③職業 (1)会社員 (2)自営業 (3)公務員 (4)学生 (5)主婦(6)無職 (7)その他 ()
④住所 (1)羽島市内 ()市町村 (2)羽島市外 ()県 ()市町村

1. このワークショップを何で知りましたか (複数回答可)

(1)広報誌 (2)新聞 () (3)テレビ・ラジオ (4)インターネット
(5)チラシ・パンフレット (6)その他 ()
*希望する広報形態がありましたらご記入ください ()

2. このワークショップを選んだ理由を特に当てはまるものから2つお選びください。

(1)羊毛フェルティングに興味があったから (2)生活に役立つと思ったから (3)テーマが良かったから
(4)参加費が無料だから (5)ここ以外ではこのようなワークショップはないと思うから
(6)親子で参加できるから (7)その他 ()

3. この講座の満足度について

	満足度				
	(小)	→	大		
① あなたのワークショップ目的は達成されましたか	1	2	3	4	5
② ワークショップ内容について					
a. わかりやすかったですか	1	2	3	4	5
b. 興味がもてましたか	1	2	3	4	5
③ 教材の提示方法 (プリント、スライド、OHP など)	1	2	3	4	5
④ 施設 (ワークショップの設備など)	1	2	3	4	5
⑤ マテリアル (素材) の理解を少しでも深めましたか	1	2	3	4	5
⑥ 楽しめましたか (御自身)	1	2	3	4	5
⑦ 楽しめましたか (お子様)	1	2	3	4	5

4. その他、ワークショップ内容や形態などについてお気付きの点がございましたらご自由にお書きください。

5. 今後、御参加の上で御希望の開催日・時間帯はいつですか。

①曜日について i 平日 ii 土曜日 iii 日曜日
②時間帯について i 午前 ii 午後 iii 夜間 具体的な開始時間 時 分開始

6. 今後取り上げてほしいテーマ等がありますか。具体的にお書き下さい。

御協力ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

3.3 アンケート結果

問0.① 参加者の性別調査は、22人中、女性が21名、男性が1名であった。問0.② 参加者の年齢調査は、親

「テキスタイルマテリアルセンター」におけるワークショップの成果と今後の展望

年齢は30代7名、40代11名で、殆んど40代前後の母親だった。子供年齢は10代7名であった。この10代は、「問②-⑧同伴のお子様の年齢」の10代と重複するものである。

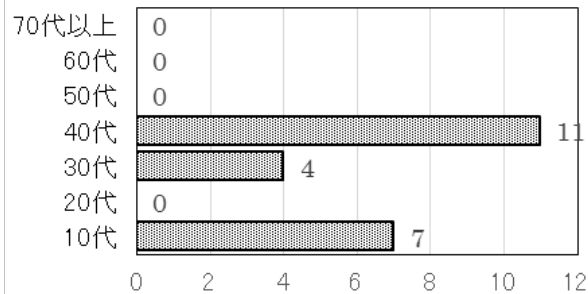


図2. 参加者の年齢構成

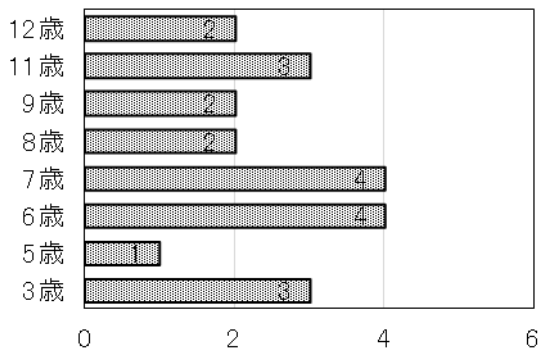


図3. 親に同伴で参加した子供の年齢構成

同伴の子供の年齢は、幼稚園1年保育年長の6歳から小学校1年生の7歳を中心に、その他3歳から12歳までの子供が参加した。(合計21名)

参加者の職業は、主婦41%、学生27%、会社員18%、自営業5%、その他9%であった。その他はパート等である。(回答数22名)

参加者の住所は、羽島市内(竹鼻町3名、堀津町2名、上中町2名、福寿町1名、その他7名)計15名、羽島市外(大垣市1名、岐阜市2名)計3名、無記入4名、合計22名であった。

問1.「ワークショップを何で知りましたか(複数記入可)」の結果では、チラシ・パンフレットが36%、広報誌23%、新聞14%、インターネット4%、その他23%、テレビ・ラジオ0%であった。その他は「友人から聞いた、妹から聞いた、知人に教えてもらった」などであった。テレビ・ラジオの広告はおこなっていない為、0%になっている。今回は、親が広告の情報を入手している為、チラシや広報誌、新聞が主であった(回答数22)。

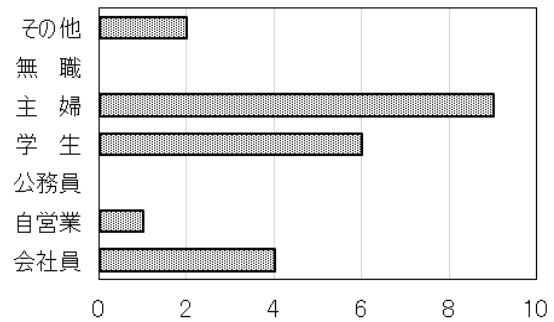


図4. 参加者の職業

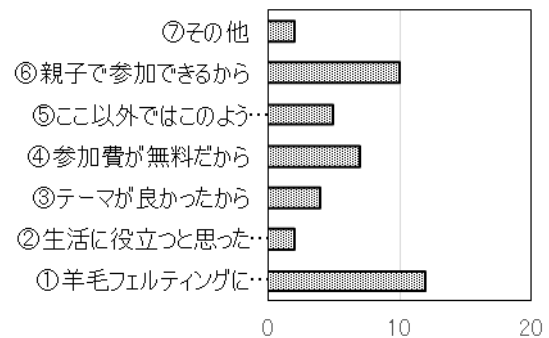


図5. ワークショップに参加した理由

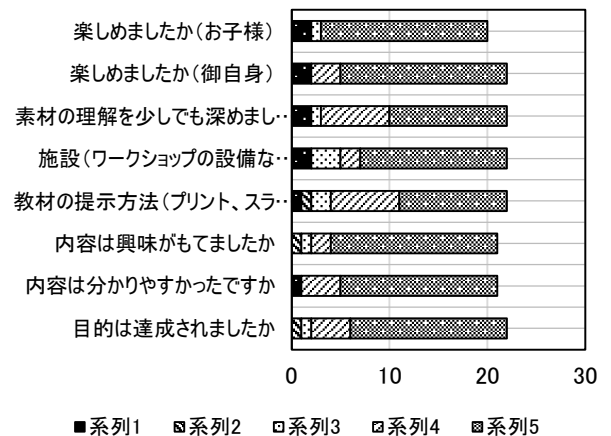


図6. ワークショップに参加した満足度

問2.「このワークショップを選んだ理由(複数可)」では、①羊毛フェルティングに興味があった28%、⑥親子で参加できる24%、④参加費が無料17%、⑤ここ以外ではこのようなワークショップはない12%などが、多数の回答をえた。その他19%(図5.)。羊毛の興味が高いことがわかった。(回答数42)

問3.「この講座の満足度」の結果は、目的の達成度、ワークショップの内容の理解と興味、教材の提示方法や施設、マテリアル(素材)理解の満足度、さらに楽しめたかどうかの満足度、等の項目で1~5の満足度で調査をおこなった。図6. は系列1が低い評価、系列5が高い評価で

ある。満足度の結果は、4と5の満足度の合計で考察した結果、高い評価となった。特に「目的が達成できた・楽しんだ(御自身・親)」が90%、「内容が分かりやすかった」が95%、「興味・素材の理解」が80%以上であった。「教材の提示・施設」の満足度は77%であったものの、比較的高い数値であった。

問4.「ワークショップ内容や形態で気付いた点は(複数可)」の結果は、特になし・記入なしは40%だったが、「良かった、大満足」等は28%、「あつという間だった、時間がもっと欲しい」等は12%、その他「またやって欲しい、親も何か作りたい」等、様々な意欲あるコメントが計20%を示し、このワークショップの内容や形態は、時間の配分などの今後の課題はあるものの、高評価と認識できた。

(回答数 25)

問5.「今後の参加する上で希望の開催曜日と時間帯について」の結果では、日曜日と土曜日が89%を示し、希望時間は午後が72%の回答があった為、今後の日程に活用したい。(回答数 18)

問6.「今後の取り上げてほしいテーマは」の結果では、作品等(ウール素材使用、バレッタ、フラワービーズ、バッグ、刺繍、人形、ナブキン等)、ミシン講習、デザインやコーディネートなどのファッションに関するテーマなどが挙げられた。生活に密着しデザイン的にも楽しい、日常ファッション雑貨のニーズが高いと理解し、今後のテーマを検討したいと考える。(回答数 23)

4. 成果と今後の展望

ワークショップは大変好評で終了した。羊毛同士をニードルパンチャーで突くだけで簡単に付着し、オリジナルな柄が制作できること、これは羊毛の特性を活かして出来るものであること、等、子供達が理解できたと考える。

羽島市は、木曾川左岸の尾張西部地域「尾張産地」とともに、高級毛織物の世界3大産地として発展を遂げてきた。しかし、海外生産の波による低価格ファッション志向の情勢により、事業所数、従業員数、製造品額、さらに後継者不足など、減少が続いている。この要因は、海外生産における低価格志向だけではないと考える。産地の特性としてトップブランドの高級毛織物を生産する一方で、消費者ニーズに対する中間財の付加価値あるテキスタイルの開発が定着出来てなかったと考察する。「ガチャ万景気」のなごりだろう。

今後の課題として、後継者の人材確保や育成は勿論のこと、消費者ニーズにおける付加価値ある新商品の開発や取組強化、尾州産地のブランド力強化とそれに伴う人材の集積など、まだまだ課題は大きい。

本学は、学外授業の一環としてテキスタイルマテリアルセンターを活用し、素材研究やセミナーの実習を行いより高度な知識を深め、更に一般の方々にはワークショップを開催して毛織物の知識、次世代の人材育成に推進している。しかし、これは、教育機関の範囲に過ぎない。社会の発信には至っていない。今後は三者連携事業の改善や継続を図りながら、アパレルメーカーや流通企業の連携も計画し、社会へ「産地の活性化」の発信を検討したい。

謝辞

本研究をまとめるにあたり、ワークショップにおけるアンケート配布など御協力を頂きました岐阜県毛織協同組合、羽島市、産業技術センターの皆様へ感謝いたします。

参考文献

- 1) 吉田三郎, 平成16年3月15日, 『羽島市制五十年史』市制五十年記念誌編纂委員会.

(提出日 平成30年 1月 9日)